

立命館経済學

第 39 卷 第 2 号

1990年6月

内 容

論 說

サービス労働・商業労働の価値形成性……………小 檜 山 政 克 1
——『資本論』の批判的分析——

流動性選好は危険回避の為か……………平 田 純 一 29
——3資産モデルによる分析——

航空宇宙産業の国際的再編について……………大 西 広 56

研 究

戦後日本の貿易分析について……………茶 谷 淳 一 73

立 命 館 大 学 経 済 学 会

立命館経済学 第38巻・第6号

論 説

新経済政策（NEP）後のマレーシア経済の展望……………西 口 清 勝
——マレーシア経済学会第10回大会での研究報告の検討——

公共部門と貿易構造……………阿 部 顕 三

研 究

利潤率低下と利潤量増大の「二面的法則」と恐慌論……………増 田 和 夫
——J.S. ミルの利潤率低下論をとおして——

産業組織のグローバリゼーション……………肥 塚 浩

共同研究室

発行所 立命館大学経済学会

立命館経済学 第39巻・第1号

論 説

いわゆるパリ・ノートと

【経済学・哲学草稿】について……………岡 崎 栄 松
——「ラービン論文」公表以前を中心として——

展望：リカード的成長モデルの諸形態……………堂 目 卓 生

準市場経済（Quasi Market Economy）と

ヘクシャー=オリーン・モデルの限界（下）……………小 野 進

研 究

ケネディ政権下の税制改革……………飯 野 公 央
——その背景と政策意図——

発行所 立命館大学経済学会